

第5回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議 会議概要

- 1 会議名 第5回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議
- 2 日時 令和2年10月7日 午後2時から 午後3時25分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 2階 会議室201
- 4 出席者 宮田弘康委員(会長)、白澤勇一委員(副会長)、中澤美穂委員、降旗治喜委員、中村 梢委員、川崎克之委員、松元 久委員、鶴飼博将委員、加集安行委員、米澤章雄委員、丸山慎哉委員、坂倉とも子委員
- 5 担当課出席者 商工観光部 鎌崎部長、観光交流促進課 大竹課長、下里係長、由井係長、古畑
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和2年10月14日

協議事項等

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議
- 4 その他
- 5 閉会

【協議内容】

- (1) 令和元年度までの取組評価報告書(中間報告)について
事務局より説明

委員 地域づくりに関することや他部署の担当分を省略してあることは理解。連携していくことについて、記載はされていてもなかなか難しいこと。情報共有をおこなったうえで仕分けなど積極的にやってほしい。

委員 意見についてかなり集約されていると思うが、ここに記載されない意見は資料としては残るか。必要に応じて閲覧等できるのか。また、この報告書は具体的にどのように活用されるのか。

会長 以前の会議で使用した、委員の意見をまとめた資料から抜粋されていると思うがその資料も残るといいか。

事務局 報告書については委員の皆様から承認いただければ、次のビジョン策定のために引継ぎをさせていただく。これまでの会議の資料は保存年数に従い保存し、皆さんの会議でのご意見はホームページで公表していく。

会長 項目が別でも似通った意見や他部署が主管となることについては割愛したところもある。

委員 割愛されたものは記録には残らないのか。

事務局 これまでの会議録については、委員の意見を反映したもので公表していく。

委員 地域づくりに関する事項は多岐にわたることもあり省略やむなしという部分もある。ただ、観光振興ビジョンの中には市民参加や市民協働の概念がしっかり入っている。その関わりの中で地域づくりが出てきていると思うが、今回基本方針の中ではその部分が欠落してしまっている。今回のビジョンで市民参加、市民協働ということに取り組みなかったのであれば、次回のビジョンに何らかの形で生かしていく姿勢が必要ではないか。コロナ禍で観光や観光産業への理解、協力姿勢は市民のなかにも醸成されつつある。そのような中で市民参加、協働の方策を作っていくことをここに明記しておかないと、単純に行政と観光産業だけのビジョンとなり施策でもなくなって、尻すぼみになる気がする。市民をとらえたうえでの推進体制とし、ビジョンを絵空事に終わらせない、具体的な施策を伴った戦略として再構築することが次期に向けての方針となるべきと思う。

会長 現ビジョンについては精神論が見られる。具現化していくべきという点については委員の皆さんからも賛同いただいているので、次期ビジョンには具現化したものを入れていくということは正しくその通り。

協 議 事 項 等

委員 市の運営を見ていると観光に対して関心が薄い。市職員だけでなく市民全体も同じ。コロナで問題点があぶりだされたと見て今後の課題にしていく。お互いが歩み寄るように。

(他意見なし)

会長 中間報告書については了解いただいたということでよいか。

(異議なし)

(2) ビジョン基本戦略に基づく令和2年度以降の具体的な取組提案について

事務局より説明

委員 安曇野暮らしツーリズムは「普通の暮らしが観光資源に」ということにもなるが、市民にはそれが浸透していない。地元の人を楽しみ、また訪れる人も一緒に楽しむというのが理想。ビジョンの推進組織が観光協会ということには疑問を持つ。対外的なプロモーションは当然観光協会だが、市民向けのアピールは違う。観光という切り口から方々へつなげ、市民も観光協会に関心を持ってもらいたい。取組提案についての議論もいいが前提にはそういうこともお伝えしたい。

会長 表のなかにある追加提案については、いつからという記載がないが。

事務局 ご提案いただいたものに対して、委員の皆さんからのご意見をまだいただけていないという観点から時期を示していない。今後、この追加提案を含めてご検討していただければ。

会長 できる、できないという問題もあると思うが、実施するにしてもPRする前に計画を作らなくてはということはある。次期ビジョンで実施することでも令和4年までの間に計画立案していかなければいけないことも。そのことから追加提案についてここでご意見をいただき、現ビジョン中に動くのがよいか次ビジョンか、などを探していきたい。

委員 1-2のボルダリングについて、「いま流行の」と記載されているように、トレンドがあるようなものは早めの着手が望ましいのでは。

委員 2-1の農家民宿について、追加提案では相反する意見がある。どのように扱えばよいか。

会長 は修学旅行を言っているが、おそらく追加提案は大人を対象にしているのでは。

委員 自分が提案したもの。農業体験自体はいいこと。かつて小川村で実施していたが、農家の負担が大きいことなどから3年でなくなった。負担を減らし持続するための策など検討が必要。

会長 ホテルや旅館の一般宿泊客に、オプションツアー的な形で農業体験してもらえればと思うので、追加提案についてはそのように進めてもらいたい。

委員 宿泊関係者も観光客も両者が潤う、というのが理想的だと思う。

委員 農家民宿については今までどのような仕組みでやっているのかも知らなかった。そういう情報が入手できない。

委員 2-2にある「やまこ(天蚕)を使用した...」、3-3の「天蚕技術の...」など、関連するものはまとめられないか。

委員 追加提案についてはいつ始めてもよく、先送りする必要性は何もないと思う。問題は誰がやるのかとなったとき、先程の話のように全部を観光協会がやるということではできない。包括的に推進するために、振興ビジョンを推進する体制づくりが必要。その端緒となるべきものを次期ビジョンで作っていかないと。いつまでも観光協会、観光行政という体制では観光客も安曇野ファンも増やすことはできない。提案をいつから始める、いつならできる、ではなく推進体制が大切。体制づくりから始めるべき。

会長 追加提案分については今後事務局検討とすることでよいか。あわせて、この事項についてもご理解いただいたということでよいか。

(異議なし)

(3) その他

事務局より今後のスケジュールなどについて説明

(意見等なし)

(協議終了)

会議概要は、原則として公開します。

会議を非公開または一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。